

peer

ぴあ応援ブック

Vol. 8

児童養護施設・里親家庭で暮らす

夢を持っているきみへ。
これから夢を持つきみへ。

2024 Summer

ぴあ応援ブック制作チーム

CONTENTS

奨学金で知っておきたいこと

奨学金アドバイザーインタビュー

自立をサポートする人へインタビュー

中高生へのメッセージ

④レシピ／まちがいさがし



奨学金について 知っておきたいこと

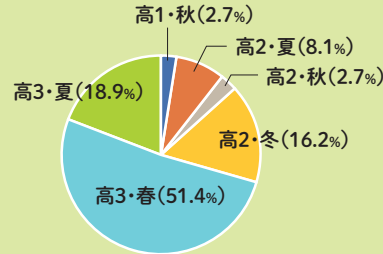
アンケート

今回は進学に欠かせない奨学金について、応援生にアンケートを実施しました！
中高生の皆さん、ぜひ参考にしてください！



1 奨学金を探し始めた時期

バラつきはありますが、高校3年生の春や夏が多く、
応援生の7割がこの時期から探し始めています。



ぼくは
高校3年生の
春だったな！

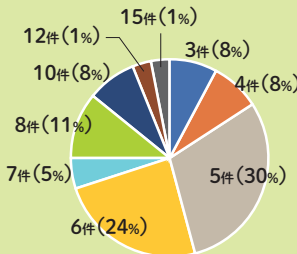


2 奨学金を選ぶ際に着目した点

返済不要の「給付型」であることや、給付額、給付期間について、特に多くの応援生が着目していました。
このほか、手続きや提出物、課題のスケジュール、募集人数といった回答も。また、「施設の職員さんに
提案してもらった」と答えた応援生もいました。

3 奨学金の申込件数

5～6件申し込んだ応援生が全体の半分超でした。
最も少ない人で3件、多い人で15件。
必要な金額によって大きな個人差があるようです。



私も申し込み
しました！



4 奨学金を探す際に困ったこと&解決

- ・奨学金関連の情報を収集すること ➡ 周囲の大人にも協力してもらった
- ・奨学金ごとに必要な住民税非課税証明書を役所に取りに行くこと

➡ そのつど足を運ぶのではなく、計画を立て、一定数をまとめて取りに行った。
施設の職員さんなどの周囲の協力も得た

- ・進学に必要な資金が足りないこと ➡ 進路を国立大に変更した
- ・学業と書類作成の両立 ➡ 施設の職員さんや学校の先生の協力を得た



「情報収集関連で困った」と
答えた応援生が4割程度い
た一方、「周囲の協力があり、
特に困らなかった」と答えた
応援生も半数を占めました。

5 誰に相談したか

施設の職員さんや里親さん、学校の先生をあげる応援生が目立ちました。
ほかに「同じ施設の先輩」「児童自立支援専門員さん」といった回答もありました。



6 アンケートに回答した応援生から中高生の皆さんに向けた応援メッセージ!(一部抜粋)

- ・奨学金の申請には成績証明書が必要な場合が多く、普段から真面目に学校の授業を受けてください！
- ・進路を決めかねている人は、急いで一つに絞らず、気になるいくつかの選択肢を想定し、準備を進めてもいいと思います！
- ・同じような経験をした人が周囲にいれば、話を聞かせてもらってください！
- ・わからないことなどはそのままにせず、頼れる周りの大人に尋ねてもいいと思います！
- ・施設にはあらかじめ「進学したい」という意志を伝え、届いた募集要項をそのつど見せてもらってください！
- ・周りの大人と進路について話す機会をつくり、一緒に調べていくことによって、選択肢が増えると思います！

応援生とは

児童養護施設・里親家庭等進学応援金(奨学金)を受け、全国の大学や専門学校で学ぶ約60人です。
この冊子はその中の有志9人が中心となって制作しています。



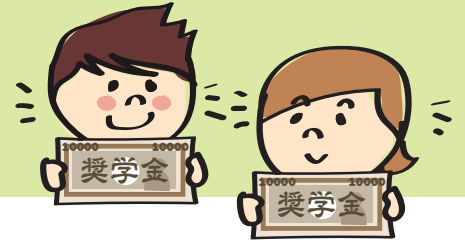
Interview

奨学金アドバイザー久米忠史さんへのインタビュー第3弾

前回に引き続き奨学金アドバイザーの久米忠史さんのインタビューです。
奨学金について様々な質問に回答していただきました。

Profile

1968年生まれ東京都在住。奨学金アドバイザーとして2005年から沖縄県の高校で始めた奨学金講演会が「分かりやすい」と評判を呼び、全国で開催される進学相談会や高校・大学等での講演が年間150回を超える。



Q 施設や里親家庭など「社会的養護」のもとで暮らす子どもに対する奨学金は、この先、どのようになっていくと考えますか？

A 高等教育の修学支援新制度の創設により国の奨学金は大きく変わりました。国が大学など高等教育の無償化に舵を切ったのは確かです。いっぽう、公益財団などの民間の奨学金団体数は2016年度をピークに減少傾向にあることが気になります。



Q 社会的養護の子どもや若者にとって、奨学金は欠かせません。選択肢が狭まるとしたら残念ですね。

A その通りです。私は「教育」には二面性があると考えています。「格差を埋めるのも、広げるのも『教育』である」と。格差があっても教育を受けることでその差を狭められるし、逆に受けられなければさらに格差が拡大してしまう、という意味です。社会的養護の子どもたちは、ハンディキャップを背負って18歳を迎えます。それを乗り越えるスタート地点に立つため、進学には大きな意味があります。学びたいと思っている人は、ぜひ奨学金を活用してほしいと考えています。

Q 奨学金を得て進学する際、特に気をつけるべき点はあるますか？

A 学校選びですね。これは奨学金の制度に問題があります。

例えば入学後、「学校が合わない」「やりたいことができない」と感じ、退学したとします。そのうえで、改めてほかの学校に入学すると、奨学金の給付に制限が出てくる場合があるのです。(返さなければならない)貸与型奨学金であれば、もう一度借り直すことができます。しかし、(返済不要の)給付型奨学金は、一度きりしか利用できません。二度目はない。つまり、学校選びのやり直しがきかないのです。

こうしたことから、社会的養護の子どもたちは、早い時期から進路についてじっくり考え、相談することが必要でしょう。その際、子どもに寄り添い、第三者的視点で志望校を見てあげられる「進路アドバイザー」が必要だと思います。このアドバイザー役として、同じ境遇を経験した「先輩」である応援生は適任だと感じています。



応援生から

全3回のインタビューの中で、今回の記事はもっとも久米忠史さんの思いが詰まった内容になったと感じています。

進学にあたっては、ともすれば金銭面がばかりが目立ちますが、その前段階での学校選びが大切だ、というお話にはとても共感を覚えました。また、進学は僕たちが背負うハンディキャップを乗り越え、可能性を広げられる手段であるというメッセージも心に響きました。インタビューを快諾して下さった久米さんに改めて感謝するとともに、この記事が社会的養護のもとで暮らす皆さんにとって、もう一度夢や目標について考えるきっかけになれば嬉しいです。

周りには力になってくれる大人たちがたくさんいます。どうかそのことを忘れないでください。



最近嬉しかったこと

大好きなアーティストのライブに当選したことです！ライブはずっと先なのでこれをモチベに一年間頑張れそうです！笑 皆さんの推しは誰ですかー?? みくる

社会的養護自立支援拠点事業は全国の自治体で行われています。川崎市ではいつ始まったのでしょうか？

2018年度です。今年度で7年目になります。そもそも事業は、社会的養護のもとで暮らす若者らの相談支援を通じ、円滑な社会的自立を果たしてもらいたいと、厚生労働省が全国の自治体に呼びかけたのが始まりでした。

誰に対し、どのようなサポートをしているのですか？

施設などに入所中・退所後の若者たちが対象です。進学や就労、退所後の一人暮らしの困りごとなどについて相談にのっています。

具体的には、例えば進学だと、奨学金の申請や暮らしていくうえでの金銭のやりくりの方法。就労では、ビジネスマナーを学ぶ機会を設けたり、自分に合った就職先を選んでエントリーするのを手伝ったり。一人暮らしについては、住居の情報を提供し、賃貸の手続きを手助けするほか、生活費をどのようにやりくりしていくかの収支計画づくり、保険、税金などの相談にも応じています。

社会的養護のもとで暮らす子どもや若者は、経済的に苦しいことが少なくありません。奨学金について、どのようなサポートをしているのか教えてください。

いろいろあるので一例ですが、(返済不要の)給付型の奨学金をリストアップし、情報提供しています。また、奨学金を申し込む際に必要な面接や作文についてのアドバイスもしています。

その前段として、進学先を決めた高校生について、金銭面でのシミュレーションを行うこともあります。具体的には「進学し、一人暮らしを始めた場合、学費や生活費などにいくらかかるか」「その費用をまかなうため、いくらか奨学金を得られればいいのか」といったことを試算し、奨学金を選ぶ際の参考などにしてもらっています。

このほか、川崎市の児童相談所の措置を受けた社会的養護の若者らに限ってですが、市の給付型奨学金についての相談窓口の役割も果たしています。

おしえて！

Interview

川崎市で社会的養護自立支援拠点事業に取り組んでいる自立支援コーディネーターの相川大知さんに聞きました！

児童養護施設の職員さんや里親さん以外に困りごとや不安について相談できる場所があるのは知っていますか？

都道府県や政令指定都市などが実施する「社会的養護自立支援拠点事業」では進学、就職、生活などの相談に応じてくれます。

相談者と同じ立場の若者たちとの交流の場を設ける活動もしています。

施設や里親家庭など「社会的養護」を離れた後でも相談に応じてもらえます。

今回は川崎市で社会的養護自立支援拠点事業に取り組んでいる自立支援コーディネーターの相川大知さんに、事業の内容や、どのようなことを支援をしているのか、インタビューしました。



相川大知さん プロフィール

大学卒業後、不動産管理会社に就職。福利厚生施設などの営業開発を担当するなかで、子どもと高齢者が支えあう施設に感銘を受ける。もともと児童福祉分野への関心が高かったこともあり、一念発起して転職。現在、自立支援コーディネーターとして、奨学金受給のサポートや就労・生活支援、関係機関との窓口役を担うほか、社会的養護から離れた若者たちに対するアフターケア※も担当している。

応援生から

川崎市の社会的養護自立支援拠点事業について、詳しく教えていただきました。このような取り組みについて、まだまだ広く知られていないように感じます。もっと社会の理解が深まればいいな、と思いました。皆さんは、身近に相談できる場所をネットで調べたり、施設の職員さんや里親さんに川崎市のような取り組みがあるのか尋ねてみたりしてもいいかもしれません。私自身、アフターケアについてしっかりとした認識を持っていませんでした。相川さんのお話をうかがい、施設に入所していた当時に加え、退所後の現在も支援してくださる方々に、いっそう感謝の念を抱きました。アフターケアは、私たちが安心して暮らしていけるようにすると同時に、「人に頼ること」の大切さも教えてくれるものだと思っています。

さて次号では、現在の社会的養護について、相川さんがどのように考えているかをうかがいます。また、相川さんからのメッセージもお届けします。お楽しみに！

きめ細かいサポートをされているんですね。就労支援についてはどうでしょう？

単に求人情報を提供するだけでなく、面談や、その若者がどのような職業に向いているかを探る適性検査などを繰り返し、一緒に希望職種を絞り込んでいきます。これは就職後の定着も考えてのことです。そのうえで、マッチする職業を案内したり、場合によってはコーディネーターが就労先を開拓・紹介したりしています。



進学か就職か、まだ進路が決まっていない子どもや若者にはどのようなサポートをしているのでしょうか？

一緒に悩むところから始めています。大事なのは本人が自ら納得したうえで選択すること。そのために役立つような情報提供や助言などを行っています。

支援対象の子どもや若者は、どれぐらいの割合で進路に悩んでいるのでしょうか？ また、進学か就労かを選ぶ際、決め手になっているのはなんですか？

基本的にほぼ全員が悩んでいますね。(高校を卒業し、多くが社会的養護を離れる)18歳というタイミングは、人生に真剣に向き合う時期だと思います。悩んで当然です。

この先は私見ですが、悩みを抱えた子どもや若者にも、目標とする人物—例えば先輩など—がいたり、職業があったりする。「自分もそういう人や仕事に合わせるのがいいのか、それとも、違った道を進むべきなのか」という観点でじっくり考え、答えを出す子どもが多いように感じています。

やはり進路で悩む18歳は多いんですね。

はい。高校3年生で最も多いのは進路についての相談です。進学を選択したあとは、奨学金や受験の方法についての相談が目立ちますね。

※アフターケアとは？

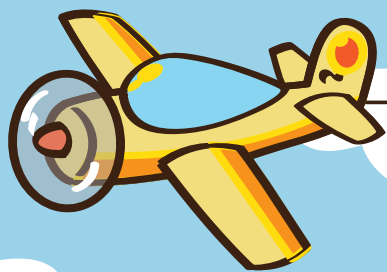
社会的養護のもとから巣立った若者が、その後も安心して自立した生活を送れるようにするため、継続的に行われるサポートのこと。カウンセリングによる心理面の支援や、進学時の奨学金・学費補助に関する情報提供、就労に向けたサポートなど、内容は多岐にわたっている。また、同じ経験を持つ仲間との交流の場を設ける「コミュニティ形成」などもアフターケアに含まれる

最近嬉しかったこと

夏になってアイスがよりおいしく感じられて幸せです。最近は牛乳アイスにハマっています！ ふうね

最近嬉しかったこと

バイト先の先輩がお菓子をたくさん買ってくれたことです。バイトは忙しいけどお店の人たちがいい人たちなので何とか頑張れています！ しおり



がんばれ! 中高生!!

今年4月に進学した新☆応援生と、同じく社会人になった
応援生OB・OGからの、皆さんに向けた応援メッセージです!!

Fight!



もしつらいことがあったり、現実には絶望してしまったりしても、大丈夫。その経験は将来、必ず君の武器になるよ。そして、人との出会いを大切に。施設の職員さんや里親さん、学校の先生、友だちなど、ぜひ周りの人を頼ってね。きっと君の力になってくれるから。これを読んでる君のことを、私も応援しています。

施設や里親家庭での生活で、不安や悩みなどはたくさんあると思うけど、一人で抱え込まず、相談できる人を見つけてください。話すだけでも気持ちは楽になります。私たちはあなたの味方です!



Do your best!

Best Friends!



中高生の皆さん、こんにちは! 新社会人のゆうごです。社会人になってわかったのは、学生時代の交友関係はかけがえのないものだということです。一人でもいいから、仲のいい友だちをつくっておきましょう! それと、皆さんは日々、勉学に励んでいると思いますが、「体が資本」であることも忘れずに。一定量の勉強をしたら区切りをつける、疲れを感じる前に休憩を挟む、適度な運動をする(お勧めはランニング)。加えて、バランスのいい食事やしっかり眠ること(7時間程度)も大事です。これらが勉強を長続きさせるコツになります。以上、新社会人からのアドバイスでした~。

皆さん、こんにちは。新社会人のしょうりです。ぶっちゃけ社会人は大変です。仕事で覚えることはたくさんあるし、職場の人付き合いもあるし……けど、毎日新しい発見や出会いがあって、とても楽しく生活しています。これを読んでる皆さんはいかがですか? 新しい環境に慣れると同時に、少し疲れが出てくる頃だとも思います。無理をせず、ゆっくり歩んでいきましょうね。応援しています。

Discovery!



応援生から

新生活は、始める前も始めた直後も不安が多いと思います。でも、皆さんは一人ではありません! 誰もがスタート前後は同じなので、あまり不安を感じすぎないようにしてください。もちろん、将来を考えることもすごく大事だけれど、上のメッセージにあるように、周りの大人や友だちを大切にしつつ、精一杯「今」を楽しんで! 素敵な新生活を始められるよう願っています☆

最近嬉しかったこと

中学の頃の友達と1年ぶりに会えて一緒に沢山話せたことです! 久しぶりに会えてとても楽しい時間を過ごせました! ゆう

簡単！おいしい！応援生のマル秘レシピ！！

『もずく丼』

〈材料〉2人前

生もずく(塩抜き)—————1パック

人参、玉ねぎ、枝豆、コーンなど好みの野菜

ひき肉—————200g

ご飯—————適量

調味料:酒、みりん、醤油、生姜、粉末だし

→各調味料(大1ずつ)で入れ、味をみながら調整する！

各野菜の量は
少なくてOK!



POINT!!

もずくにはミネラルが豊富に含まれており、
また食物繊維も豊富なのでオススメです♪

〈作り方〉

もずくは軽く洗い食べやすいようにカットして、野菜はみじん切りにしておく。

フライパンに油をひき、野菜を炒める。

しんなりしてきたら、ひき肉を加え炒める。

具材に火が通ったら、もずくを入れ軽く炒める。

調味料を適量加え、炒める。

ご飯の上に
のせて完成!!



まちがいがし

2枚の絵の違うところを5つを見つけよう! 正解者の中から、クオカードをプレゼント!!

全部見つけたら、QRコードから応募しよう!

応募締切

2024年10月31日



応募資格 ぴあ応援ブックを読んでいる児童養護施設・里親家庭等で暮らす中高生

注意事項 ・当選された方には、11月上旬に【@asahi.com】のメールアドレスからご連絡します。

・個人情報、朝日新聞厚生文化事業団が取得し、賞品の発送先の確認のためのみに使用します。

・当選者の発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

正解は次号に
掲載します!

応募はこちらから



編集後記

夢を持っているきみへ。
これから夢を持つきみへ。

次号もお楽しみに!



いよいよ本格的に暑い季節がやってきましたね。夏といえば夏休み! 気になる学校のオープンキャンパスなど積極的に参加してみるのがおすすめです! 今年も厳しい猛暑が予想されているので無理はせず、体調に気を遣いながら暑い夏も元気に過ごしましょう! まみ

WE ARE A GOOD TEAM!



進学情報シェアチーム

奨学金や進学体験などの情報を施設や里親といった社会的養護で暮らす中高生や養育に関わる大人たちに共有(シェア)していく活動を行っています。1人でも多くの中高生の背中を後押しできるように頑張っていきたいと思います!



サイトチーム

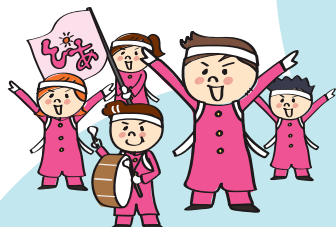
全国の社会的養護に関連する奨学金情報などを掲載した、奨学金検索サイト【Miomus(ミオムス)】を公開しました。奨学金の検索ができるほか、奨学金の仕組みや、当事者の声など、様々なコラムを配信予定です。学校関係者の方や、社会的養護に関わり始めた方も、奨学金について深く知るきっかけになってほしいです!

奨学金情報等のお役立ち
情報をたくさん公開!



すだちずチーム

「すだちず」とは社会的養護で暮らしている子どもたちが、巣立ちを考える際に役立つ情報や応援メッセージが満載の新しい権利マップ(サイト)です。一人一人が自分らしく歩むための未来図を描くのに役立てて欲しいという願いながら制作しました。



フェスチーム

昨年に第2回目となる、社会的養護で暮らす中高生、養育者向けのオンラインイベントを実施いたしました。例年は10月開催でしたが、第3回目となる今回は2025年2月開催(予定)に向けて、メンバー一同準備しています!中高生に向けた進学体験や一人暮らし、お金に関するお話することに加え、大人に向けても勉強になるようなイベントを考えています。今まで以上に良いものになるように頑張っていきたいと思います!



ラジオチーム

社会的養護で育った私たちの経験やゲストインタビュー、大学生生活、奨学金の情報についてYouTubeを通してラジオ形式で発信しています。企画から出演、イラスト作成などを学生が中心となってい、同じような境遇にあり、進学や夢を目指す中高生を応援することを目的に活動しています。多くの皆さんにお聴き頂ければ幸いです。

びあ応援ラジオを
YouTubeなどで配信中!

